

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第 60 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2023 年 11 月 9 日 (木) 13 時 00 分～15 時 30 分

2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)

3. 出席者 (順不同、敬称略)

(出席委員) 柳原主査、新崎幹事、石川 (武部副主査代理)、上田、梅原、柏木、工藤、小松原、  
坂下、佐々木、鈴木、高崎 (竹腰委員代理)、田村、福元、丸、山本、脇 (17 名)

(欠席委員) 横田 (1 名)

(常時参加者) 出雲、小野、古田、森本、前田、山本、山田、美濃、上市 (9 名)

(欠席常時参加者) 土田、松本、満田、宮田、小林 (5 名)

(オブザーバー) なし

4. 【配付資料】

F9Ph2SC60-1\_第 59 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC60-2\_専門部会・分科会人事シート LLW 廃棄体製作・管理分科会

F9Ph2SC60-3-1\_コメント対応一覧\_L2 大型角型廃棄体製作検査標準

F9Ph2SC60-3-2-1\_標準本体 (L2 大型角型廃棄体)

F9Ph2SC60-3-2-2\_新旧比較\_標準本文の改訂の内容

F9Ph2SC60-3-3-1\_附属書 D (大型)\_充填固化体の固型化条件

F9Ph2SC60-3-3-2\_新旧比較\_附属書 D の規定内容

F9Ph2SC60-3-4-1\_附属書 I (大型)\_大型角型容器仕様\_ボルト締め

F9Ph2SC60-3-4-2\_新旧比較\_附属書 I の規定内容

F9Ph2SC60-4\_倫理教育 2023\_LLW 廃棄体等製作・管理分科会からの意見 (集約中)

F9Ph2SC60-5-1\_L2 製作検査標準 (ドラム缶形態編) 標準の目的-講習会用 OHP

F9Ph2SC60-5-2\_L2 製作検査標準 (ドラム缶形態編) 製作関係-講習会用 OHP

F9Ph2SC60-5-3\_L2 製作検査標準 (ドラム缶形態編) 検査関係-講習会用 OHP

F9Ph2SC60-6\_ L2 大型角型廃棄体製作・検査標準の技術評価対応について (電事連資料)

5. 議事

(1) 出席者の確認

新崎幹事から、分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

新崎幹事から、F9Ph2SC560-2 に基づき、2 名の委員選任、2 名の委員退任及び 1 名の常時参加者登録について説明があった。委員選任については審議・投票の結果了承された。また、委員の退任、常時参加者については確認され、特にコメントはなかった。合わせて、石川委員が副主査として指名され、幹事が新崎委員から田村委員に交代する旨の報告があった。新崎幹事は委員として継続する。

上記の人事案件についての報告・審議結果は、11月15日開催予定の原子燃料サイクル専門部会に付議される。

① 委員選任

石川 譲二 (JAEA)

高崎 伸朗 (日本原子力発電)

② 委員退任

武部 慎一 (JAEA)

竹腰 直樹 (日本原子力発電)

③ 常時参加者登録

上市 陽二 (関電パワーテック)

(3) 前回議事録案の確認

新崎幹事から、F9Ph2SC59-1に基づき、前回議事録案について説明があった。本分科会において追加コメントは無く、承認された。

(4) 前回分科会でのコメント対応

柏木委員から、F9Ph2SC60-3-1に基づき、前回コメント対応について説明があった。大型角型容器の蓋取り付け手順について、本文で規定する案(A案)と参考例として記載する案(B案)が審議され、B案とすることで了承された。

・B案で進めるとしても、ガスケットと潤滑剤との相性について留意することが必要ではないか。

→今後、受渡事業者間の協定の中で留意されるものと認識している。

(5) 標準本文の修正内容の確認

柏木委員から、F9Ph2SC60-3-2-1、2に基づき、コメント対応に伴う標準案の改訂内容について説明があった。

また、容器フランジ面の検査基準について、「受渡事業者間の協定による」という表現について、標準全体の用語の統一性を再検討して次回分科会にて審議することとした。

・受渡事業者間での協定によるという表現は標準にそぐわないのではないか。

→JISでも同じ表現が使われており問題ないと思われる。

・他の箇所では、「所定の基準により」という表現もあり、標準としてはこの表現の方が好ましいと思われる。

・「所定の基準」で統一するなら、その表現でよい。

・「所定の基準」としておいて、別途注記して説明すればよい。

→解説では、双方の表現についてその意味を説明している部分があるので、標準全体としてどのように使い分けるか再整理し、次回分科会で審議説明する。

(6) 附属書Dの修正内容の確認

柏木委員から、F9Ph2SC60-3-3-1、2に基づき修正内容について説明があった。  
特に質疑なし。

(7) 附属書Iの修正内容の確認

柏木委員から、F9Ph2SC60-3-4-1、2に基づき修正内容について説明があった。  
記載内容に、「受渡当事者間の協定」という表現があり、(5)の議論を踏まえて整理することとした。

(8) その他

a) 2023年度倫理教育の受講について

新崎幹事から、F9Ph2SC60-4に基づき、2023年度倫理教育の受講実績について説明があった。  
未受講の委員は今月末までに受講し幹事まで報告することとした。

b) ドラム缶標準の講習会予定について

新崎幹事から、11月15日に予定している講習会で配布する資料について紹介があった。

c) L2大型角型廃棄体製作・検査標準の技術評価対応について

協委員からNRAの技術評価に向けた電事連としての方針について説明があった。今後、分科会として関係者との調整も踏まえて、必要に応じて2024年度計画に盛り込んでいく。

6. 次回の予定

別途、調整する。

以 上